

廃炉に立ちはだかる汚染水問題

福島第一事故炉廃止措置の現地状況



①現地を視察に訪れた田中規制委員長(左)と廣瀬東京電力社長。



②地下貯水槽に設置される漏えい検知システム。検知孔貫通部の不具合が漏えい原因の可能性の一つとみて、念入りに調査が行われている。

廃止措置が進められている東京電力福島第一原子力発電所1〜4号機では、停電による使用済み燃料プール冷却設備停止(三月十八日)、試験運転中の多核種除去設備(ALPS)の誤操作による自動停止(四月四日)、さらに、同五日には、地下貯水槽からの汚染水漏えいが発生するなど、トラブルが頻発している。汚染水漏えいについては現在、汚染水移送、タンク増設計画などの応急対応に加え、政府、事業者等挙げて、中長期的対策の検討に取り組んでいるところである。一連のトラブルにより、事故発生直後に緊急に整備した設備類の信頼性が問われているばかりでなく、地元住民・産業からも不安の声が聞かれる。このような状況に鑑み、十三日、田中俊一原子力規制委員長が現地視察に訪れた。

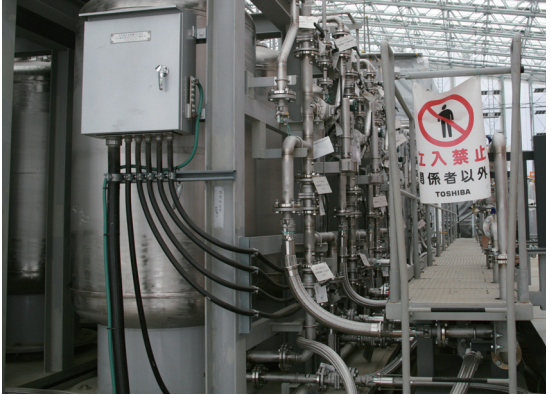
ここでは、福島第一の現地状況を、汚染水問題を中心に、今後、長期にわたる廃止措置の道から見れば一部分に過ぎないと思われるが、写真で紹介してみたい。(写真は原子力規制委員会提供、⑥を除く)



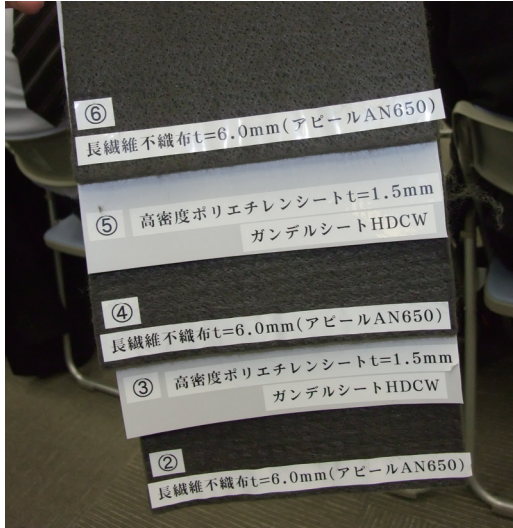
③サイトに多数並ぶ貯水タンク群。



⑤4号機建屋では、今年11月の使用済み燃料プールからの燃料取り出しを目指し、カバー設置工事など、作業が進展している。



④汚染水から放射性物質を取り除く多核種除去設備(ALPS)の内部。62核種に低減効果が確認されている。



⑥地下貯水槽の底面シートのサンプル。この下にベントナイトシートを加え6層構造となっている。

TENEX

Leading Supplier of Nuclear Fuel Cycle Goods and Services



株式会社テネックス・ジャパン
TENEX-JAPAN Co.,

東京都港区虎の門5丁目11番2号 オランダヒルズ森タワー14F
(Tel):03-5776-1511 (Fax):03-5776-1512 (E-mail):info@tenex.co.jp